

分科会Ⅱ 第1分科会

テーマ「自他を尊重し、自ら考えて、よりよく行動できる児童生徒の育成 ～学校・家庭・地域との連携や豊かな体験活動を生かして～」

提 案 者	東広島市立河内中学校
司 会 者	東広島市立安芸津中学校
記 録 者	東広島市立黒瀬中学校
指導助言者	広島県西部教育事務所芸北支所

1 はじめに

河内町には、現在、3校の小中学校（河内小学校、入野小学校、河内中学校）がある。以前から小中連携が図られていたが、平成17年度に「河内中学校区小中一貫・接続教育推進協議会」（以下、「校区協」という。）を組織し、9年間で育てたい子供の姿を明確にし、家庭・地域と一体となった取組を組織的・継続的に行っている。

また、地域の住民自治組織の活動は活発で、地域行事に児童生徒が参加したり、各地域に伝わる神楽や太鼓を児童生徒が伝承したりする体験活動を実施する等、地域と学校とのつながりは大変強い。

令和元年度には、中学校区において文部科学省委託「道徳教育改善・充実」総合対策事業を受けることにより、これまで行ってきた校区協の取組や、地域の方々との活動を振り返り、学校・家庭・地域が一体となった様々な体験活動を系統化しながら、効果的に道徳教育を推進し、研究主題でもある「自他を尊重し、自ら考えてよりよく行動できる児童生徒」を育成するための研究を行った。

2 研究主題について

グローバル化が進展する中、様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重し合いながら生きることや、科学技術の発展や社会・経済の変化の中で、人間の幸福と社会の発展の調和的な実現を図ることが一層重要な課題となっている。

こうした課題に対応していくためには、社会を構成する主体である一人一人が、より高い倫理観をもち、人としての生き方や社会の在り方について、多様な価値観の存在を認識しつつ、自ら考え、他者と対話し協働しながら、よりよい方向を目指す資質・能力を備えることがこれまで以上に重要であり、こうした資質・能力の育成に向け、道徳教育は大きな役割を果たすと考えている。

本校の生徒は、地域や家庭に温かく見守られながら、素朴で素直に育ち、規範意識も身に付いている生徒が多く、問題行動等は少ない。しかし、同学年の人数が少ないこともあり、人間関係が固定化し、馴れ合いになったり、競争や自己主張から避けたりする面がある。また、他者と議論して、新たな方向性を見出したり、これまでの取組を改善したりする決断力や実行力に欠ける面もみられる。

そこで本校では、育てたい資質・能力を「意欲的に考え、自分の意見を持ち、他者に伝える力」「自分とは異なる立場や考えを理解し、協働して何かを成そうとする強い意志」とし、体験活動や地域の方との関わりを通して、「自他を尊重し、自ら考えてよりよく行動できる児童生徒」を育成することとした。

具体的には、道徳科の授業の内容や指導方法の工夫・改善を中心に、体験活動を通じた道徳教育に関わる指導や道徳教育における家庭・地域・社会との連携の在り方について、研究を進めた。

3 研究仮説

学校・家庭・地域での体験活動と道徳科の授業の在り方の関連を明確にし、小中学校で系統的な研究や実践を行い、学校・家庭・地域が協働した体験活動や道徳教育を実践すれば、自他を尊重し、自ら考えて、よりよく行動する生徒の育成を図ることができるであろう。

4 研究内容

【1】道徳学習プログラムと1枚ポートフォリオの作成

道徳科の授業を中心に、教科等との関連、体験活動や家庭・地域との連携を明確にした効果的な教育プログラムや、学習者が学習の結びつきや自身の変容を具体的な記録により可視化できる1枚ポートフォリオの研究

【2】特別の教科 道徳の授業改善

体験活動と関連付けた授業に向けて、児童生徒の実態に即した授業にするための「主題解釈と教材解釈」シートの活用

【3】体験活動を生かした授業・教材の開発

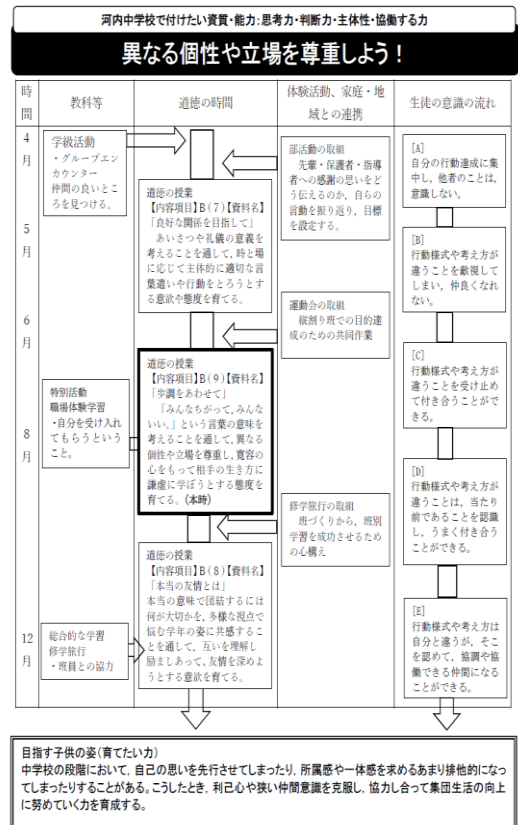
家庭や地域と一体となった体験活動を効果的に関連付けた道徳科の授業の在り方や地域教材の開発や活用の研究

5 研究の実際

(1) 道徳学習プログラムと1枚ポートフォリオの作成 ア 道徳学習プログラム

研究を始めるに当たり、本校区では、学校・家庭・地域との連携を図りながら、教育活動全体を通して道徳性を育むための道徳学習プログラムを作成して実践を進めた。

これまでに道徳教育全体計画と教科等との関連表の作成を行い、諸活動と道徳教育との関わりを意識した教育活動を推進してきたが、更にこれを道徳学習プログラムとして短いサイクルで捉え、道徳科と諸活動との関わりをより具体化した。育てたい力を「目指す子供の姿」に具体化してゴールに置き、教科、教科外活動、家庭・地域との関連を児童生徒の思考に沿って関連付け、価値付ける教育的なプログラムである。短いスパンで作成することにより、諸活動との関連、各教科との関連、児童生徒の意識の変化の様子、評価などが分かりやすいプログラムになり、児童生徒自身が学習の見通しをもち、自分の成長を実感しやすいものになると考えた。結果、ゲストティーチャーの招聘など、地域・家庭等の連携が計画的に行うことにもつながった。

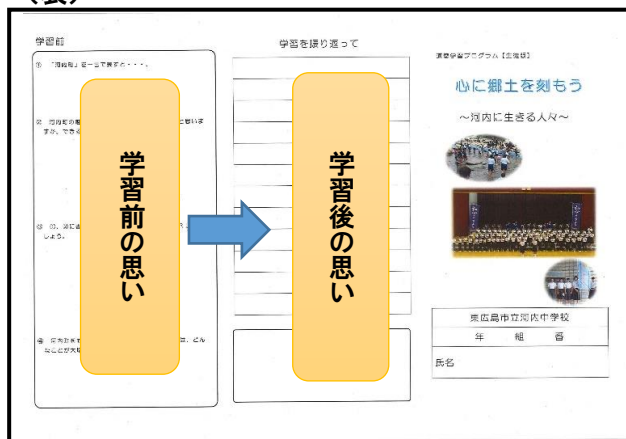


イ 道徳学習ポートフォリオの作成及び活用

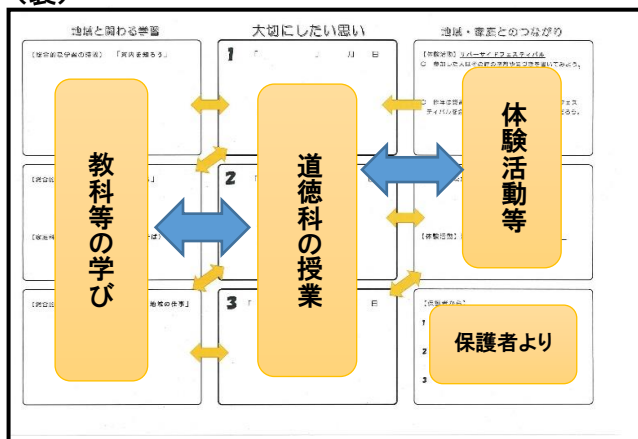
道徳学習プログラムを児童生徒と共有し、自己評価の手立てとして、道徳学習ポートフォリオを作成して実践を進めることとした。

道徳科を中心に置き、各教科や体験活動等での振り返りを残し、児童生徒がつながりを意識したり、気付いたりする中で、目的意識をもって学習に取り組み、自己の成長や自分のよさを感じられるようにすることを目的として実践を進めた。実際にポートフォリオを活用したことで、授業前後の自分の考えや意見の変容を児童生徒自身が実感することができた。

(表)



(裏)



(2) 「主題解釈と教材解釈」シートの活用と授業改善

学習指導案を作成する前に、次の①～⑥のとおりシートを作成し主題や教材について考える。

【教材を読む前に】

- ①この教材がなぜ大切なのかを自分なりに考える。
- ②他の先生と考えを交流する。
- ③学習指導要領に記述してあることを確認する。
- ④焦点化する。

【教材を読んで】

- ⑤この主題を学ぶためには教材のどの部分が大切か、それはなぜかを考える。
- ⑥他の先生と考えを交流する。

上段
主題解釈

主題名	郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度			
	①自分なりに	②他の先生方と	③学習指導要領	④焦点化すると
主題解釈： この主題はなぜ大切？	郷土への愛着や、郷土の一員であるという意識を持つことができ、意思を持って社会と関わりを持つとさせるため。	河内町を巣立ち、河内町に戻ってくるという「ふるさと」として感じてほしいので、町内の伝統行事を通して、「誇りある河内」と思ってもらいたい。	郷土の伝統と文化を大切にし、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努めること。	自分たちも、幼い時から参加しているこのお祭りを実施する側の気持ちや、参加している人たちの気持ちなどを聞き取り、将来、故郷と思う自分たちは、どのように貢献していくべきなのかという事の思いを膨らませ、今自分たちにできることを考える。

下段
教材解釈

教材名	リバーサイドフェスティバル	
	⑤自分なりに	⑥他の先生方と
教材解釈： ④を学ぶためには、教材のどの部分が大切？ それはなぜ？	地域の人々のインタビュー。どのような思いで行事に関わり、将来を担う子ども達にどのようなことを期待しているのかを知ること、地域の人々に対して、自分達は何ができるかを考えることができるため。	当日参加し、いろんな人々とふれあい、気持ちを聞き取り、まとめていく。そして全体で考えるための教材を作り上げること。 自分たちで教材を作り上げることで、郷土の一員であることを自覚し、故郷に貢献する思いを持つため。

教材を読むより前にシートを用いて主題に対する自分なりの捉えを書き出し、他の先生と交流した上で、学習指導要領に書いてある内容を確認した。その後に教材を解釈することで、児童生徒の実態を考察した上で、授業のねらいや発問、評価の視点を設定することができた。

(3) 体験活動を生かした授業・教材開発

河内町に根付いている「リバーサイドフェスティバル」に生徒がボランティアとして参加しながら取材や運営の手伝いをした。その取組を中心に地域教材を作成した。生徒は自身の体験活動への取組を生かして考えを深め、郷土の一員としての自覚を更に高めることができた。



6 研究のまとめ

(1) 成果

ア 意識調査

年間3回の意識調査において、調査項目である「自尊感情」「思いやり」「規範意識」「社会参加」「中学校区設定項目」についての肯定的回答（「そう思う」「ややそう思う」）は次のとおりである。

なお、設定項目については、実践研究の目的と関わりがある項目を抽出している。

内容 時期	自尊感情	思いやり	規範意識	社会参加	中学校区設定項目 (%)	
					1	2
4月 (事前)	81.6	92.8	98.0	80.5	83.7	87.1
7月 (事前)	83.5	97.8	98.5	89.3	88.6	90.2
12月 (事後)	86.7	98.5	98.5	93.0	92.1	92.1
事前(4月)に対する事後の数値の増減	+5.1	+5.7	+0.5	+12.5	+8.4	+5.0

児童・生徒(294名)

○中学校区設定項目

- 1 生徒会活動や学校行事において学校の一員として、みんなと協力し、積極的に関わっていると思う。
- 2 道徳の時間に学んだことは普段の生活に生かせていると思う。

イ 授業での変容

道徳科の授業では、「主題解釈と教材解釈」シートの取組を基に、教材と向き合わせ自分のこととして考えさせる指導を行ったり、発問や切り返しの工夫により、物事を多面的・多角的に考えさせたりしてきた。その結果、自己の生き方について考えを深める意識が向上し、児童生徒は、道徳科での学びを実感し、生活へ活用しようとする意識が高まったと考える。また、道徳学習プログラムとポートフォリオを活用することにより、道徳科で学ぶ道徳的価値と日常の生活や行事、体験活動との関連が明確になり、学びを深めることにつながった。

また、地域教材やゲストティーチャーなど地域人材を活用することで、地域と自分との意識のつながりが生まれ、社会に尽くした先人等を尊敬する意識が高まった。

(2) 課題と今後に向けて

問題解決的な学習の過程を意識しながら指導したが、それらを児童生徒と共有することが十分でなかった。児童生徒の学習への必然性・思考の流れを持たせた学習をデザインする必要がある。

また、自尊感情3項目の中では「自分のよさは、周りの人から認められていると思う」の肯定的回答の割合が低かった(80.6%)。継続して体験活動や道徳教育の充実を図り、お互いの良さに気づき、認め、高め合える人間関係づくりを進める必要がある。

今後に向けて、道徳学習プログラムを更によりよくしていくために、各教科の単元等と道徳の内容項目の相互の関連を捉え直したり、発展させたりするような研究を進めていきたい。